

EC実践能力検定試験 —今、経営戦略に必要な人材—

企業の抱える課題として「生産性向上」を第一に挙げる経営者は多い。

ネット社会が進展し、ビジネスのコミュニケーションスタイルも電子メールやインターネットの活用が当たり前となり大きく様変わりした今、生産性向上という課題に解決を与える手法も例外なくネットワークやITに依拠したものになっている。ASPやSaaS(Software as a service)など、中小企業にとって利用価値が高く、IT経営を実現しやすいツールも増え始めており、経営戦略として、ITを活用できる人材の育成が急務となっている。

これからの人材育成には、まずネット社会への変化、つまりアナログからデジタルへ移行するにあたり、企業内外におけるビジネスプロセスがどのように変わるのかを社員に理解させ、これに対応する実践的な知識とスキルを身につけさせることが必要となる。具体的には、パソコンの操作技能やハードウェア、ソフトウェアの知識をはじめ、電子商取引、電子コミュニケーション、業務ネットワーク運用・管理、電子認証、情報セキュリティ、ネット関連法律等に関する知識やスキルとなる。

「EC実践能力検定試験」は、このようなIT関連の知識や実践的なスキルを修得することを目的としており、体験を通じてスキル修得できるようレベルに応じた研修コース（基礎・応用）も用意している。IT社会の現状等の学習はもちろんのこと、ネット社会におけるセキュリティの基盤ともいえる電子証明書を実際に取得し、秘密鍵、公開鍵の仕組み等を体験学習することができる。同研修会終了後についても、eラーニング教材により、自宅や職場で学習を継続することが可能である。

本試験は、ネット試験により実施され、お近くの試験会場で随時受験でき、受験したその場で合否が分かる。また、知識のみならず、実践的なスキルを修得してもらうため、1、2級の受験に際しては、実際に電子証明書を取得・利用し、電子商取引やネットワーク運用等を体験学習する。

なお、「EC実践能力検定試験」については公式テキスト（1～3級）が刊行されており、試験問題はこの公式テキストをもとに出題される。受験対策用にご活用いただきたい。